



日課のバンド練習は本番さながらの盛り上がり



演奏を楽しむ加川さん(右)たち



本厚木駅前でのライブ



自作のガムテープ太鼓でノリノリ



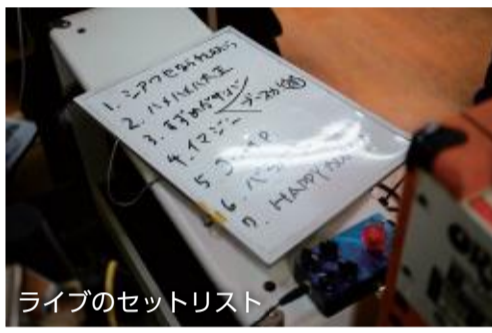
リズムに合わせて歌うメンバー



演奏中は楽しさを全身で表現



電子機器を打ち鳴らす



ライブのセットリスト



県内でのライブの様子

特集 ロック×福祉で幸せに

# 何があってもだいじょうぶ



市内の福祉事業所を拠点に活動するロックンロールバンド・サルサガムテープ。今年で結成30周年を迎えたバンドの日常に目をやると、音楽の力でみんなの存在を肯定し、全力で楽しみながら地域とつながりを深める姿がありました。

演奏や絵画の制作などで大切にしているのは「指導しない」こと。「その人が空はピンクと言えればピンクでいい。一人一人に歩んできた人生やドラマがある」と話すかしわさん。中にはバンド練習に参加するも3年間、叩かなかったメンバーもいました。それでもただ見守り続け「やりたくなったらやればいい」と、意思を尊重してきました。現在、バンドのメンバーは20〜70歳代の約20人。事業所を利用する加川正人さん(44・岡田)もメンバーの一人です。加川さんはグループホームに住みながら、週に5日、バスで通っています。「絵を描いたり、料理したり、みんなでできるのがうれしい」と、スタッフや仲間たちとの活動を楽しんでいます。昔から音楽が好きで、「事業所でバンドができると思わなかった」とドラム演奏の経験を生かしてバンドを支えています。

### 約束事は「指導しない」

「ロックンロールと福祉をつなげたのは日本で初めてだと思う」。法人では生活介護や放課後等デイサービスなどを実施しながら、音楽活動や絵画、工作などの制作に取り組んでいます。

木々が色づく頃、本厚木駅からほど近い木通の一角から、ギターや太鼓の楽しげな音色が聞こえてきます。エレキギターを手にするかしわ哲さん。市内で障害福祉サービス事業所・NPO法人ハイテンションを運営しています。「ロックンロールと福祉をつなげたのは日本で初めてだと思う」。法人では生活介護や放課後等デイサービスなどを実施しながら、音楽活動や絵画、工作などの制作に取り組んでいます。

《プロフィール》教育テレビ番組「おかあさんといっしょ」5代目うたのおにいさん・かしわ哲さんが知的障がいがあるメンバーたちと結成したバンド。1994年に秦野市の施設でスタートし、ライブやCD発売など精力的に活動。2011年に厚木に拠点を移し、設立した障害福祉サービス事業所の活動の一つとして、イベントなどで全国のステージに立つ



エレキギターを手にするかしわさん

「閉鎖的な事業所ではなく、誰でも開かれるような扉を開けていきたい」。年に1回、ずらら通り通りに3カ所ある事業所や通りを会場に、緑日やお絵描き、ステージなどを楽しめるイベントを開いています。「みんな大丈夫、何があっても大丈夫」という意味を込め「だいじょうぶウマまつり」と名付けら

### そばにいるのが当たり前

スタッフの戸田淳介さん(40)は、介助やスケジュール管理など、事業所の責任者を務めながら、バンドではボーカルを担っています。法人の設立後すぐにアルバイトとして関わり始めた戸田さん。「障がいのある人と関わったことも、福祉の知識もなかったのが不安だった。接してみると、人と人が関わるということ自体に違いはなく、それぞれが個性豊かな面白いメンバーはいないかと思つた。働きながら資格を取り、福祉に関わる知識や技術を身に付けました。間近で演奏を見て楽しそうと思ひ、バンドにも参加。趣味でギター演奏など音楽に触れていた戸田さんは、「メンバーはパフォーマーとして高め合えるライブのような存在。バンドはとにかくめっちゃくちゃ楽しい」と話します。



祭りのマスコットキャラクター・だいじょうぶブ



料理の活動では作業を分担してみんなで作る

## 障がい者 相談支援センター

《相談時間》8時30分～17時15分 (祝日・年末年始を除く) 電話相談も可

担当地区	所在地	連絡先
荻野	鷲尾2-25-10	☎281-7908
厚木	中町4-6-11	☎259-5713
南毛利	恩名1-5-7	☎205-4307
睦合南	妻田西1-17-30	☎204-4655
小鮎・緑ヶ丘・玉川・森の里	小野2136	☎247-7111
依知	関口831-1	☎280-4875
睦合	三田1-4-16	☎281-7909
相川・南毛利南・厚木南	愛甲1-9-18	☎265-0711
基幹相談	保健福祉センター	☎225-2904

専門の相談員が、市内の障がいのある方や家族、地域の方からの相談を受け付けています。☎障がい福祉課 ☎225-2221



詳細はこちら

### ささいな事も相談して

厚木障がい者相談支援センター 相談支援専門員 河嶋 明さん(52)



センターでは障がいに関する悩みを聞いたり、支援サービスを受けるための手続きをしたりと、一人一人に寄り添ったサポートをしています。相談しづらい気持ちや不安もあると思いますが、「話して良かった」と安心してもらえるよう、和やかな雰囲気づくりを心がけています。ささいなことや話がまとまっていなくても問題ありません。どんなことでもいいので、まずは話してほしいです。対面が難しい場合でも、メールや電話で相談ができるので、気軽にセンターを利用してください。



たよりを受けてる百田さん

バンドのライブは本厚木駅前や文化会館、小学校など、市内をはじめ全国各地で開催されています。

### 楽しい空間を共にする

「皆さんがすぐそばにいてくれる日常は、私にとってごく自然なもの」と、ほほ笑みます。バンドのライブは本厚木駅前や文化会館、小学校など、市内をはじめ全国各地で開催されています。今年で3回目を迎えたイベントは、今年で3回目を迎えた保護者だけでなく地域の人もたくさん訪れています。事業所の隣でコーヒー店を営む百田哲郎さん(71・旭町)も、祭りに協力店として参加しています。コーヒーを飲みに来店するスタッフと会話を重ねるうち、福祉に関心を持っていった百田さん。「事業所を行き来したり、散歩したりする皆さんとスタッフのやりとりを見て、接し方を知った」と言います。イベントへの参加だけでなく、利用者が作った事業所のたよりを受け取ったり、言葉を交わしたりと、「皆さんがすぐそばにいてくれる日常は、私にとってごく自然なもの」と、ほほ笑みます。

2025年に文化会館でライブを開催予定です。詳細は今後の「ぶんか情報館」でお知らせします。

「よし、始めようか。かしわさんのギターの音を合図に、みんなが握りしめたスティックを勢いよく振り下ろします。全力で「生きる」を楽しむ人たちが奏でる音楽は、どんな垣根も乗り越えて、にぎやかに世界へと鳴り響いています。

「一緒に関わってくれるスタッフや仲間が増えたら」と願う戸田さんで実施しています。年間30回ほどステージに立ち、ゲストを招いたり、観客を巻き込んだりと、その空間をみんなで楽しんでいます。「一緒に何かを作り上げるのが大切。その活動の中心にあるのがロックンロール」。絵画や工作などのアートやだいたいじょうぶウマまつりなど、音楽を中心に活動の輪を広げています。「30年間バンドが続いてきたのはきつと意味がある。これからも長く続けたい」と力を込めるかしわさん。「包容力のあるまちであってほしい。いつか厚木でもロックフェスができれば」と笑顔を見せます。「よし、始めようか。かしわさんのギターの音を合図に、みんなが握りしめたスティックを勢いよく振り下ろします。全力で「生きる」を楽しむ人たちが奏でる音楽は、どんな垣根も乗り越えて、にぎやかに世界へと鳴り響いています。



アトリエに展示する作品



芸術活動で絵を描くメンバー



手作りのお面はライブ会場にも飾る



祭りでは地域のお店も出店